



江戸時代には、どんな将軍がいたの

徳川15代将軍一覧

- 初代(1603~1605年)家康:天下を取り、江戸幕府の基礎を築いた。
- 2代(1605~1623年)秀忠:家康の三男。家康の方針をよく守った。
- 3代(1623~1651年)家光:秀忠の次男。老中・若年寄などの職制の整備、参勤交代の制度化、鎖国の実施などによって、幕藩体制を整えた。
- 4代(1651~1680年)家綱:家光の長男。学問が盛んになった時代。
- 5代(1680~1709年)綱吉:家光の四男。「生類憐みの令」を出し、「犬公方」とよばれた。町人を中心とした元禄文化が栄えた。
- 6代(1709~1712年)家宣:家光の三男綱重(甲府藩主)の長男。朱子学者の新井白石に「正徳の治」の改革を行わせた
- 7代(1713~1716年)家継:家宣の三男。4歳で将軍、7歳で死去。
- 8代(1716~1745年)吉宗:紀伊徳川家出身。幕府の財政を建て直すため、「享保の改革」を行った。ききんのときに米の値段の調節につとめたので、「米将軍」とよばれた。
- 9代(1745~1760年)家重:吉宗の長男。体が弱かった。
- 10代(1760~1786年)家治:家重の長男。田沼意次が権力をふるった。
- 11代(1787~1837年)家斉:一橋家出身。松平定信が「寛政の改革」を行った。文化・文政期に町人文化が栄えた。子が55人いたといわれる。
- 12代(1837~1853年)家慶:家斉の次男。水野忠邦に「天保の改革」を行わせたが失敗。ペリーとの会見後まもなく病死。
- 13代(1853~1858年)家定:家慶の長男。病弱で子がなかった。
- 14代(1858~1866年)家茂:紀伊徳川家出身。井伊直弼が「安政の大獄」を行い、暗殺された。公武合体政策で和宮(孝明天皇の妹)と結婚。第2次長州征伐の敗戦で混乱している最中に病死。
- 15代(1866~1867年)慶喜:水戸徳川家から一橋家の養子になり、家定の後つぎ問題で家茂と対立。大政奉還を行い、明治時代に公爵になった。